※剣道具、剣道用具について

昇段審査会では、公平性・安全性に欠いた剣道具・剣道用具は使用しないようにしましょう。

※日本剣道形審査について（下表）

特に間違えやすい内容を列記いたしました。審査会に向けて参考にしていただき充分な日本剣道形稽古をして審査に臨むようにしましょう。

	打・仕	注意事項	日本剣道形　解説書より　（抜粋）
立会		提げ刀、帯刀では刃を上にして持つ。	
一本目	打太刀	左上段：左足を前に出しながら上段に構える。	
	仕太刀	右上段：中段の構えからそのままま っすぐに上段の構えになる。	
一本目	打太刀	三歩目後に右足を踏み出し、機を見て正面を打つ。	左足から進み、間合いに接したとき、機を見て右足を踏み出し、仕太刀の正面を打つ。
一本目	仕太刀	左足を踏み出しながら、残心を示す。	仕太刀は、十分な気位で打太刀を圧しながら、剣先を顔の中心につけ、打太刀がさらに一歩引くと同時に、左足を踏み出しながら、諸手左上段に振りかぶり残心を示す。
三本目	打太刀	仕太刀の残心後、右足から元の位置に戻る。	仕太刀は、すかさず右足から二、三歩小足にやや早く位詰に進み、剣先は胸部から次第に上げていって顔に中心につける。その後、打太刀は右足から、仕太刀は左足から相中段になりながら…
三本目	打太刀	突いた後のさがり方（五歩）は 右→左→左→右→左	打ち太刀はこのとき右足を後ろに引くと同時に、剣先を仕太刀の刀の下から返して、諸手をやや伸ばし、左自然体の構えとなり、剣先は仕太刀の咽喉部につけて仕太刀の刀を物打ちの鎬で右に押さえる。 仕太刀は、さらに突きの気勢で左足を踏み出し、位詰めに進むので、打ち太刀は左足を引くと同時に、剣先を仕太刀の刀の下からまわして返し右自然体の構えになり、物打ちの鎬で押さえるが仕太刀の気位に押されて剣先を下げながら左足から後ろに引く。
	仕太刀	突く時は右足→左足	仕太刀は、打ち太刀の胸部につき返す（右足）。さらに突きの気勢で左足を踏み出し位詰めに進む。
四本目	打立ち	八相の構え…左足を出しながら構える。	左足を出しながら、左諸手上段からそのまま右こぶしを右肩あたりまで下した形。…八相の構え
	仕太刀	脇構え…右足を後ろにしながら構える。刃先は右斜め下に向ける。	右足を引きながら、左半身になり、刀を右脇に剣先を後ろにし、刃先は右斜めに向ける。…脇構え
	仕太刀	巻き返して左足を左前に、右足をその後ろに移すと同時に、正面を打つ。	仕太刀は、左足を左前に、右足をその後ろに移すと同時に大きく巻き返して打ち太刀の正面を打つ。
六本目	仕太刀	小手すり上げ小手。	仕太刀はその刀を、左足を左に開くと同時に、小さく半円を描く心持ちで、右鎬ですり上げ、右足を踏み出し、打太刀の右小手をを打つ。
七本目	打太刀	左足から二歩目の右足で仕太刀の正面を打つ。	打太刀が諸手で胸部をつく。仕太刀は鎬で打太刀の刀を支える。打太刀は、左足を踏み出し、右足を踏み出すと同時に、体を捨てて諸手で仕太刀の正面を打込む。
小太刀三本目	打太刀	右足から三歩進みの三歩目で仕太刀の正面を打ち下ろす。	打太刀は中段、仕太刀は下段半身の構えで、打太刀は立会の間合から、右足、左足と進み、次の右足を踏み出すとき、仕太刀が入身になろうとするのを中段から諸手右上段に振りかぶって、仕太刀の正面に打ち下ろす。
小太刀		構えをとくときは、剣先を下げると同時に左手を下ろす。	小太刀を構えたときは、左手の親指は後ろに、四指は前にして腰にとる。